

1	.	私	が	携	わ	っ	た	プ	ロ	ジ	エ	ク	ト	の	特	徴									
1	.	1	.	プ	ロ	ジ	エ	ク	ト	と	し	て	の	特	徴										
		準	大	手	製	造	業	社	の	A	社	の	製	品	は	、	そ	の	製	品	の	安	全	性	の
特	徴	か	ら	厳	し	い	品	質	が	要	求	さ	れ	て	お	り	、	製	品	ロ	ッ	ト	毎	に	
品	質	記	録	が	作	成	、	管	理	さ	れ	て	い	る	。	製	品	の	品	質	向	上	及	び	
歩	留	ま	り	率	の	改	善	の	た	め	、	品	質	記	録	の	統	計	デ	ー	タ	が	作	成	
さ	れ	て	い	る	が	、	こ	れ	ら	の	品	質	記	録	は	製	品	ロ	ッ	ト	番	号	毎	に	
紙	の	み	で	保	管	さ	れ	て	い	る	た	め	閲	覧	す	る	ま	で	に	時	間	が	か	か	
り	、	統	計	デ	ー	タ	作	成	に	は	多	大	な	労	力	を	要	す	る	た	め	、	そ	の	
手	間	の	削	減	が	課	題	と	な	っ	て	い	た	。											
		そ	の	課	題	解	決	の	た	め	、	A	社	で	は	品	質	記	録	閲	覧	と	品	質	統
計	デ	ー	タ	作	成	が	w	e	b	ベ	ー	ス	で	実	行	で	き	る	シ	ス	テ	ム	導	入	
が	決	定	さ	れ	、	中	堅	S	I	会	社	の	B	社	が	そ	の	シ	ス	テ	ム	化	を	請	
け	負	う	事	と	な	っ	た	。	私	は	B	社	の	プ	ロ	ジ	エ	ク	ト	マ	ネ	ー	ジ	ャ	
と	し	て	、	本	プ	ロ	ジ	エ	ク	ト	に	参	画	し	た	。									
		本	プ	ロ	ジ	エ	ク	ト	の	特	徴	と	し	て	は	、	A	社	の	予	算	執	行	の	都

合	よ	り	、	1	0	ヶ	月	後	ま	で	に	納	品	と	検	収	が	必	須	で	あ	っ	た	。
ま	た	、	主	に	手	書	き	で	作	成	さ	れ	て	い	る	品	質	記	録	を	、	如	何	に
統	計	デ	ー	タ	を	作	成	し	や	す	い	よ	う	に	シ	ス	テ	ム	化	す	る	か	の	課
題	に	対	し	て	、	A	社	に	は	デ	ー	タ	作	成	及	び	管	理	に	精	通	し	た	技
術	者	が	少	な	く	要	件	定	義	が	ス	ケ	ジ	ュ	ー	ル	通	り	に	進	捗	し	な	い
リ	ス	ク	が	あ	っ	た	。																	
1	.	2	.	シ	ス	テ	ム	化	に	関	す	る	要	求	の	特	徴							
	A	社	は	、	品	質	記	録	の	統	計	デ	ー	タ	作	成	に	あ	た	っ	て	、	重	要
な	管	理	項	目	に	つ	い	て	は	タ	イ	ム	リ	な	統	計	デ	ー	タ	作	成	を	要	求
し	て	い	た	。	し	か	し	、	B	社	メ	ン	バ	に	馴	染	み	の	無	い	製	品	に	関
す	る	品	質	記	録	を	扱	う	た	め	、	統	計	デ	ー	タ	を	作	成	す	べ	き	重	要
な	管	理	項	目	が	B	社	だ	け	で	は	策	定	困	難	で	あ	っ	た	。	ま	た	、	シ
ス	テ	ム	化	に	際	し	て	、	な	る	べ	く	A	社	の	現	状	の	品	質	記	録	作	成
手	順	を	変	更	せ	ず	に	済	む	よ	う	、	A	社	の	社	内	規	定	に	準	拠	す	る
事	が	要	求	さ	れ	た	。																	

2	.	要	件	膨	張	へ	の	対	応	策	と	実	施	状	況	・	評	価								
2	.	1	.	要	件	の	膨	張	を	防	ぐ	た	め	に	計	画	し	た	対	応	策					
		私	は	、	要	件	定	義	に	お	い	て	要	求	を	詳	細	に	す	る	際	に	、	重	要	
		管	理	項	目	が	次	々	に	追	加	さ	れ	る	等	要	求	が	膨	張	す	る	リ	ス	ク	要
		因	に	対	応	す	る	必	要	が	あ	る	と	考	え	た	。	そ	こ	で	、	要	件	の	膨	張
		を	防	ぐ	た	め	に	次	の	対	応	策	を	計	画	し	た	。								
		・	A	社	責	任	者	を	含	む	、	要	件	検	討	会	議	メ	ン	バ	を	選	出			
		・	項	目	追	加	の	工	期	、	予	算	へ	の	影	響	を	簡	易	的	に	見	積	も	る	
		・	重	要	項	目	間	の	優	先	順	位	を	要	件	検	討	会	議	で	決	定	す	る		
		・	項	目	追	加	要	望	は	、	要	件	検	討	会	議	で	採	否	を	決	定	す	る		
		何	故	な	ら	ば	、	A	社	の	責	任	者	を	含	ん	だ	要	件	検	討	会	議	に	て	、
		要	求	の	優	先	順	位	を	決	定	す	れ	ば	、	優	先	順	位	の	低	い	も	の	は	、
		納	品	後	の	別	途	追	加	開	発	へ	後	回	し	す	る	事	に	よ	り	、	工	期	内	の
		開	発	範	囲	の	膨	張	が	防	げ	る	と	考	え	た	か	ら	で	あ	る	。	ま	た	、	項
		目	追	加	の	採	否	を	都	度	要	件	検	討	会	議	に	て	工	期	、	予	算	へ	の	影
		響	を	検	討	し	た	上	で	承	認	す	る	体	制	を	構	築	す	る	事	に	よ	り	変	更

要	件	の	確	定	が	順	調	に	で	き	る	と	考	え	た	か	ら	で	あ	る	。			
2	.	2	.	対	応	策	の	実	施	状	況	と	評	価										
	要	件	検	討	会	議	の	開	催	に	つ	い	て	は	、	A	社	と	合	意	が	得	ら	れ
た	。	と	こ	ろ	が	、	A	社	メ	ン	バ	の	会	議	へ	の	参	加	率	が	悪	く	重	要
項	目	の	優	先	順	位	を	検	討	す	る	に	あ	た	っ	て	、	不	参	加	メ	ン	バ	の
合	意	が	必	要	な	事	が	多	々	あ	り	、	優	先	順	位	策	定	が	順	調	に	進	ま
な	か	っ	た	。	ま	た	、	重	要	管	理	項	目	と	し	て	挙	げ	ら	れ	た	項	目	数
が	当	初	の	予	想	よ	り	も	倍	以	上	多	か	っ	た	た	め	、	工	期	、	予	算	内
に	実	施	で	き	な	い	可	能	性	が	濃	厚	と	な	っ	た	。	そ	こ	で	、	私	は	A
社	の	責	任	者	と	相	談	し	、	検	討	会	議	に	出	席	で	き	な	い	場	合	は	、
そ	の	担	当	者	の	関	連	項	目	の	優	先	順	位	を	下	げ	る	事	と	し	た	。	こ
れ	に	よ	り	、	本	当	に	重	要	で	優	先	順	位	の	高	い	項	目	が	あ	っ	た	場
合	は	メ	ン	バ	の	参	加	が	得	ら	れ	た	た	め	、	優	先	順	位	が	決	ま	る	よ
う	に	な	り	、	6	割	の	重	要	管	理	項	目	に	つ	い	て	は	、	納	品	後	の	別
途	追	加	開	発	と	す	る	事	に	合	意	を	得	、	要	件	の	確	定	を	完	了	す	る
事	が	で	き	た	。	し	た	が	っ	て	、	私	が	実	施	し	た	対	応	策	は	、	一	定

氏名：

問：平成24年度 問1

設問イ

3/3

の	評	価	が	で	き	る	と	考	え	る	。	た	だ	し	、	メ	ン	バ	の	出	席	状	況	が
悪	い	時	の	対	応	策	を	初	期	段	階	か	ら	考	え	て	お	く	べ	き	で	あ	っ	た
こ	と	が	、	反	省	点	で	あ	っ	た	。													

3	.	要	件	の	定	義	漏	れ	の	予	防	策	と	実	施	状	況	.	評	価				
3	.	1	.	要	件	の	定	義	漏	れ	.	誤	り	の	予	防	策							
私	は	,	A	社	の	技	術	者	不	足	に	よ	り	要	件	定	義	工	程	で	の	定	義	漏
れ	や	定	義	誤	り	等	の	不	備	が	発	生	し	,	後	工	程	で	の	要	件	膨	張	や
手	戻	り	と	な	る	リ	ス	ク	に	対	応	す	る	必	要	が	あ	る	と	考	え	た	。	そ
こ	で	,	こ	れ	ら	の	リ	ス	ク	に	よ	る	ス	ケ	ジ	ユ	ー	ル	超	過	や	予	算	超
過	を	防	ぐ	た	め	,	次	の	対	応	策	を	計	画	し	た	。							
	.	要	件	定	義	工	程	に	B	社	か	ら	委	任	契	約	で	要	員	を	派	遣		
	.	プ	ロ	ト	タ	イ	プ	を	作	成	し	,	A	社	規	定	と	の	整	合	を	確	認	
	.	工	期	と	予	算	の	再	見	積	も	り	を	実	施	し	,	差	異	を	提	示		
	.	要	求	の	優	先	順	位	を	策	定	と	プ	ロ	ト	タ	イ	プ	の	承	認			
何	故	な	ら	ば	,	プ	ロ	ト	タ	イ	プ	を	用	い	れ	ば	A	社	技	術	者	に	完	成
品	を	イ	メ	ー	ジ	し	易	い	た	め	,	定	義	漏	れ	や	定	義	誤	り	が	発	生	し
に	く	い	と	考	え	た	か	ら	で	あ	る	。	ま	た	,	プ	ロ	ト	タ	イ	プ	を	用	い
て	工	期	と	予	算	の	再	見	積	も	り	を	実	施	す	る	事	に	よ	り	,	精	度	の
高	い	見	積	も	り	が	可	能	と	な	り	,	必	須	で	あ	る	1	0	カ	月	後	の	検

収	に	対	応	可	能	な	機	能	の	要	求	範	囲	を	明	確	化	で	き	る	と	考	え	た	
か	ら	で	あ	る	。																				
3	.	1	.	予	防	策	の	実	施	状	況	と	評	価											
	プ	ロ	ト	タ	イ	プ	に	よ	る	要	件	定	義	は	、	A	社	技	術	者	か	ら	、		
	「	わ	か	り	や	す	い	」	と	好	評	で	あ	っ	た	。	A	社	規	定	と	の	整	合	性
	確	認	は	順	調	で	あ	っ	た	が	、	現	状	実	施	さ	れ	て	い	る	品	質	記	録	手
	順	に	は	、	A	社	規	定	に	な	い	項	目	が	多	々	あ	っ	た	た	め	、	追	加	要
	望	が	数	多	く	出	さ	れ	、	重	要	管	理	項	目	は	当	初	予	想	の	倍	以	上	と
	な	っ	て	い	た	。	各	項	目	追	加	に	対	す	る	工	期	や	予	算	の	見	積	も	り
	を	元	に	、	検	討	会	議	で	優	先	順	位	を	決	定	し	プ	ロ	ト	タ	イ	プ	承	認
	が	得	ら	れ	た	た	め	、	要	件	が	確	定	し	検	収	が	当	初	予	定	に	間	に	合
	っ	た	た	め	、	私	の	実	施	し	た	対	応	策	は	一	定	の	評	価	が	で	き	る	と
	考	え	る	。																					
	以	上																							

論文添削結果（クイック）

2013.03.12 みんなのSE創研

添削者：佐藤 創

【添削情報】

論文提出者：

問題 : 平成24年度 問1

【免責事項・その他】

本添削結果は、添削者個人の判断によるものであり、所属する会社や組織を代表する意見ではございません。また、本添削結果に即したからといって試験の合格を保証するものではありません。本添削結果の使用の結果生ずるあらゆる損害や被害について添削者は免責されるものとします。本添削結果の著作権は添削者に帰属します。

なおクイック添削は短時間で添削を行うことから、添削結果での指摘の漏れが発生する可能性がございます。通常の添削結果に比べて精度にばらつきが発生する点につきましてはご了承をお願い致します。

[目次]

1. 論文見出し構成の例
2. 論述すべき内容
3. 添削結果
4. 講評
5. 今後の学習に関するコメント

1. 論文見出し構成の例

以下に添削者が考える、本問題の見出し構成の例を示します。

1. 私が携わったプロジェクトの特徴
 1. 1 プロジェクトとしての特徴
 1. 2 システム化に関する要求の特徴
2. 要件膨張への対応策と実施状況・評価
 2. 1 要件の膨張を防ぐために計画した対応策
 2. 2 対応策の実施状況と評価
3. 要件の定義漏れの予防策と実施状況・評価
 3. 1 要件の定義漏れ・誤りの予防策
 3. 2 予防策の実施状況と評価

2. 論述すべき内容

以下に添削者が考える、問題文から読み取れる題意と、求められる論述内容について、「1. 論文見出し構成の例」に沿って示します。

見出し	論述すべき内容	備考
1. 1	<p>①プロジェクトの概要について端的（2行程度）に述べられていること。</p> <p>②プロジェクトとしての特徴（契約・納期・予算・各種制約）について、今後の論述の布石になるような内容を適切に述べていること（むしろ論述に関係しない内容については述べないほうが望ましい）。</p>	
1. 2	<p>①要件の膨張や漏れ・誤りが発生する可能性がある背景について、「システム化に関する要求の特徴」として述べていること。 ⇒設問イ、ウにおいて、要件の膨張や不備が発生する前提での対応策を検討するので、これらの状況が発生しやすい状況であるなどの、リスクや課題を述べておくことが望ましい。</p> <p>②「システム化に関する要求の特徴」は、システムの特徴や、プロジェクトの特徴を踏まえた適切な内容を述べていること。 ⇒1. 1節で述べたプロジェクトの特徴や、システムの特徴などに関連させて述べること。</p> <p>③プロジェクトの予算や納期についての制約があるために、要件の膨張や不備への対策が必要である点について述べること。 ⇒プロジェクト予算や納期についての論述は、1. 1節、1. 2節のどちらかで述べても良い。制約がなければ、要件が膨張しても問題がないため、必須の論述内容である。</p>	

2. 1	<p>①要件の詳細化をしている最中に、要求が膨張するケースにおける対応策を述べていること。 ⇒要求を詳細化する中で要求が膨らむケースを想定し、膨らんだ要求に対し、システム化目的を踏まえて要求の採否を行う承認体制を構築する、などといった対応策を計画したことを述べる。</p> <p>②要求が追加になることで要求が膨張するケースにおける対応策を述べていること。 ⇒要件定義工程やその後の工程における統合変更管理を行うため、具体的なスコープマネジメントが行える対応策を計画したことなどを述べる。 ※上記①と②は、論文内で理由が述べられているのであれば、どちらか片方のみの論述でも良い。</p> <p>③要求の膨張への対応策ではなく、要件の膨張への対応策を述べていること。 ⇒顧客からの要求自体は受け付ける必要がある点に注意する。</p> <p>④対応策が今回のプロジェクトにおいて有効であることが読み取れること。</p> <p>⑤プロジェクト計画時点で検討した内容について述べていること。 ⇒要件が膨張してからの事後対策を述べてはいけない。</p>	
2. 2	<p>①プロジェクト実行段階において、要件の膨張や、追加要求が発生したことを述べていること。 ⇒要件が膨らんだり追加になったりした場合において、適切に対応できたことを述べる論文であり、要件が一切膨らまずに終わったプロジェクトを述べる論文ではない。</p> <p>②2. 1節で計画した対応策を実施することで、要件の膨張への適切な対応ができたことを述べていること。</p> <p>③対応に関して、具体的な成果や効果を述べながら評価を行っていること。</p> <p>④今後の課題がある場合は、これまでの論述内容を踏まえて、適切な課題や改善点を述べること。</p>	
3. 1	<p>①要件定義工程における定義漏れや定義誤りが発生しないための予防策を述べていること。 ⇒プロトタイプの適用や、非機能要件など検討が漏れがちな要件について過去プロジェクトを参考にしたチェックリストを適用するなどの対応策を述べること。</p> <p>②対応策が今回のプロジェクトにおいて有効であることが読み取れること。</p> <p>③プロジェクト計画時点で検討した内容について述べていること。 ⇒要件の定義漏れ・誤りが発生してからの事後対策を述べてはいけない。</p>	設問ウ(3章)は、設問イとは独立して述べることになる。
3. 2	<p>①プロジェクト実行段階において実行した予防策の実施状況について述べていること。</p> <p>②予防策に関して、具体的な成果や効果を述べながら評価を行っていること。 ⇒過去プロジェクトにおける要件定義工程の混入欠陥密度よりも少ない数値となったので改善効果があった、などのような具体的な成果を述べること。</p> <p>③今後の課題がある場合は、これまでの論述内容を踏まえて、適切な課題や改善点を述べること。</p>	

要件定義のマネジメントについて問う問題です。設問イで要件の膨張への対応策と、設問ウで要件定義漏れの防止を問われており、設問イと設問ウの間に関連性がなく独立しているため、やや戸惑った方もいらっしゃると思いますが、結果的には書きやすい構成になっています。ただし類似する経験がないと論述することは難しい問題でした。

要件の膨張への対応としては、要求を詳細化する段階での対策と、後から要求が追加された際の対策の、2種類の対策を述べることができます。両方述べても良いですし、片方だけの論述でも問題ないと思います。

3. 添削結果

添削者が考える論文評価結果を、A～Dランクに分けて示します。合格はAランクのみです。

評価ランク	内容	判定
B	合格水準にあと一歩	不合格

※A～Dランクの評価内容は以下の通りです。

- A：合格水準にある
- B：合格水準にあと一歩である
- C：内容が不十分である
- D：出題の要求から著しく逸脱している

添削者が考える、各種の詳細な評価項目について、それぞれA～Dランクを示します。

評価項目	評価基準	評価ランク	内容
題意の適切な盛り込み	設問や問題文で求められる題意が適切に盛り込まれていること	B	合格水準にあと一歩
論理性	論述に根拠があり、論理的な内容になっていること <ul style="list-style-type: none"> ・行動や考えの背景として、経験や知識、分析結果に裏付けられた根拠が論述されていること ・行動した結果やプロジェクトの顛末を書いただけの論文になっていないこと ・論述が、具体的・定量的で、かつ論理的であること 	B	合格水準にあと一歩
プロマネの創意工夫	プロジェクトマネージャとしての創意工夫・判断基準が盛り込まれていること <ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクトマネージャらしい総合的な考え方（創意工夫）を論述していること ・プロジェクトマネージャの役割や責任を理解した上で、適切な行動等について論述していること ・専門用語などは本来の意味や目的を理解して用いていること 	B	合格水準にあと一歩
文章表現	文章表現が適切で、かつ理解しやすい文章であること <ul style="list-style-type: none"> ・論文としてふさわしい文章表現であること ・文章の内容が理解しやすいこと ・助詞などの用法に誤りがないこと ・誤字脱字がないこと 	B	合格水準にあと一歩

4. 講評

添削者が考える講評について示します。なお頂いた論文に赤字でコメントを入れておりますので（コメントは本添削結果の末尾に添付）、講評と合わせてご確認頂けると幸いです。

設問アは、全体的にはおおそ題意を満たす論述だと考えます。ただし、いくつか改善が可能な箇所がございます。1. 1節では、プロジェクトの特徴の論述よりも、プロジェクト立上げの背景の論述が多く、この点で題意を満たしていなかったと考えます。またプロジェクトの特徴として述べられている納期について、「10ヵ月後の納品と検収」という事実のみが論述されており、この事実がプロジェクトに与える影響の論述が不足していたと考えます。1. 2節では、「A社の社内規定に準拠する」という要求が、プロジェクトにどのような影響を及ぼすかの論述が不足していたと考えます。

設問イは、対策の内容と効果についての論述は十分になされておりました。しかし、その対策を打たなければならないと判断した理由については、やや曖昧なまま述べられていたと考えます。その点についてもしっかりと論理的にプロマネの判断根拠を述べていただくと、より良い論文になると考えます。また対応策の実施状況では、追加で行った要件検討会議の参加率に関する施策の内容が、やや妥当性に欠けるように感じました。詳細はコメントで追記しておりますので、そちらをご確認ください。

設問ウは、要件定義の漏れ・誤りを予防する施策が必要になった理由について論述が不足しており、論文で述べている対策が本当に効果的なのかを読み取ることが難しかったと考えます。もっと具体的な論述にして頂きますと、プロマネの能力を論文から読み取ることが難しくなり、評価が低くなってしまいますので、この点にご留意頂きたいと思います。また施策の評価の論述においては、「要件定義の漏れ・誤り」の観点での論述になっておらず、「要件の膨張」の観点での論述になってしまっておりました。この点で題意を満たしておりませんでしたので、設問で求められる内容をしっかりと把握して論述をされる必要がございます。

5. 今後の学習に関するコメント

論文で述べる施策を行う必要があると判断した根拠についての論述が不足している印象を受けます。また全体的に論述内容がやや曖昧で、具体的な要件定義の内容を想定することが難しかった印象を受けました。

論述のスタイルとしては、プロマネの考えや施策の効果などをしっかりと述べている点は問題ございません。施策を打つに至った背景（理由）についても同様に論述をして頂きたいと考えます。今後は具体的に論述を行う、という点に着目していただくとより評価の高い論文になると考えます。

以上、添削結果のご確認の程よろしくごお願い申し上げます。
ご不明点などございましたらお気軽にメールにてご連絡を頂けると幸いです。

以上

1	.	私	が	携	わ	っ	た	プ	ロ	ジ	ェ	ク	ト	の	特	徴																			
1	.	1	.	プ	ロ	ジ	ェ	ク																											
		準	大	手	製	造	業	社	の																						性	の			
		特	徴	か	ら	厳	し	い	品	質	が	要	求	さ	れ	て	お	り	、	製	品	ロ	ッ	ト	毎	に									
		品	質	記	録	が	作	成	、	管	理	さ	れ	て	い	る	。	製	品	の	品	質	向	上	及	び									
		歩	留	ま	り	率	の	改	善	の	た	め	、	品	質	記	録	の	統	計	デ	ー	タ	が	作	成									
		さ	れ	て	い	る	が	、	こ	れ	ら	の	品	質	記	録	は	製	品	ロ	ッ	ト	番	号	毎	に									
		紙	の	み	で	保	管	さ	れ	て	い	る	た	め	閲	覧	す	る	ま	で	に	時	間	が	か	か									
		り	、	統	計	デ	ー	タ	作	成	に	は	多	大	な	労	力	を	要	す	る	た	め	、	そ	の									
		手	間	の	削	減	が	課	題	と	な	っ	て	い	た	。																			
		そ	の	課	題	解	決	の	た	め	、	A	社	で	は	品	質	記	録	閲	覧	と	品	質	統										
		計	デ	ー	タ	作	成	が	w	e	b	ベ	ー	ス	で	実	行	で	き	る	シ	ス	テ	ム	導	入									
		が	決	定	さ	れ	、	中	堅	S	I	会	社	の	B	社	が	そ	の	シ	ス	テ	ム	化	を	請									
		け	負	う	事	と	な	っ	た	。	私	は	B	社	の	プ	ロ	ジ	ェ	ク	ト	マ	ネ	ー	ジ	ャ									
		と	し	て	、	本	プ	ロ	ジ	ェ	ク	ト	に	参	画	し	た	。																	
		本	プ	ロ	ジ	ェ	ク	ト	の	特	徴	と	し	て	は	、	A	社	の	予	算	執	行	の	都										

プロジェクト立上げの背景の論述をされておりますが、この観点の本節で述べる主要な内容ではございません。プロジェクトの概要は2~3行程度にまとめ、プロジェクトの特徴からの論述をすることで、題意に沿った論述になると考えます。

合	よ	り	、	1	0	ヶ	月	後	ま	で	に	納	品	と	検	収	が	必	須	で	あ	っ	た	。				
ま	た	、	主	に	手	書	き	で	作	成	さ	れ	て	い	る	品	質	記	録	を	、	如	何	に				
統	計	デ	ー	タ	を	作	成	し	や	す	い	よ																
題	に	対	し	て	、	A	社	に	は	デ	ー	タ																
術	者	が	少	な	く	要	件	定	義	が	ス	ケ																
リ	ス	ク	が	あ	っ	た	。																					
1	.	2	.	シ	ス	テ	ム	化	に	関	す	る	要	求	の	特	徴											
				A	社	は	、	品	質	記	録	の	統	計	デ	ー	タ	作	成	に	あ	た	っ	て	、	重	要	
				な	管	理	項	目	に	つ	い	て	は	タ	イ	ム	リ	な	統	計	デ	ー	タ	作	成	を	要	求
				し	て	い	た	。	し	か	し	、	B	社	メ	ン	バ	に	馴	染	み	の	無	い	製	品	に	関
				す	る	品	質	記	録	を	扱	う	た	め	、	統	計	デ	ー	タ	を	作	成	す	べ	き	重	要
				な	管	理	項	目	が	B																		
				ス	テ	ム	化	に	際	し																		
				手	順	を	変	更	せ	ず	に	済	む	よ	う	、	A	社	の	社	内	規	定	に	準	拠	す	る
				事	が	要	求	さ	れ	た	。																	

10ヶ月後までに納品と検収が必須であるという事実が、プロジェクトに対してどのような影響を与えるのかについても論述をさせて頂きたいと考えます。特に長くも短くもなく影響がないのであれば、プロジェクト概要を述べる際にあわせて簡潔に述べてしまうと良いと思います。

後述されている「データ作成の技術者不在、」という事実については、要件定義がスケジュール通りに終わらないリスクがある、といったプロジェクトへの影響についてしっかり記載されていますので、納期の観点についてもしっかりと述べるか、プロジェクトの特徴ではなくプロジェクトの概要として簡潔に述べるのかをご判断いただきたいと思います。

「A社の社内規定に準拠する」という事実が、プロジェクトに与える影響についても追記させて頂きたいと思います。そこまで述べることで「要求の特徴」の論述になると考えます。

氏名： 問：平成24年度 問1 設問イ

なぜ要件定義で要求から要件を導出する場合に、需要管理項目が次々に追加されると考えたのでしょうか。1.2節で述べた要求の特徴を踏まえて、もう少しプロマネの考えの根拠について丁寧に論述をして頂きたかったと考えます。また「要求が膨張するリスク要因」という表現がございますが、この内容はリスク要因ではなく、リスクだと考えます。リスク要因は、「B社に統計データ作成の経験を持つ技術者が少ない」ということだと考えますので、ご確認をお願いいたします。

2	.	要	件	膨	張	へ	の	対	応	策	と	実														
2	.	1	.	要	件	の	膨	張	を	防	ぐ	た														
		私	は	、	要	件	定	義	に	お	い	て	要	求	を	詳	細	に	す	る	際	に	、	重	要	
		管	理	項	目	が	次	々	に	追	加	さ	れ	る	等	要	求	が	膨	張	す	る	リ	ス	ク	要
		因	に	対	応	す	る	必	要	が	あ	る	と	考	え	た	。	そ	こ	で	、	要	件	の	膨	張
		を	防	ぐ	た	め	に	次	の	対	応	策	を	計	画	し	た	。								
		.	A	社	責	任	者	を	含	む	、	要	件	検	討	会	議	メ	ン	バ	を	選	出			
		.	項	目	追	加	の	工	期	、	予	算	へ	の	影	響	を	簡	易	的	に	見	積	も	る	
		.	重	要	項	目	間	の	優	先	順	位	を	要	件	検	討	会	議	で	決	定	す	る		
		.	項	目	追	加	要	望	は	、	要	件	検	討	会	議	で	採	否	を	決	定	す	る		
		何	故	な	ら	ば	、	A	社	の	責	任	者	を	含	ん	だ	要	件	検	討	会	議	に	て	、
		要	求	の	優	先	順	位	を	決	定	す	れ	ば	、	優	先	順	位	の	低	い	も	の	は	、
		納	品	後	の	別	途	追	加	開	発	へ	後	回	し	す	る	事	に	よ	り	、	工	期	内	の
		開	発	範	囲	の	膨	張	が	防	げ	る	と	考	え	た	か	ら	で	あ	る	。	ま	た	、	項
		目	追	加	の	採	否	を	都	度	要	件	検	討	会	議	に	て	工	期	、	予	算	へ	の	影
		響	を	検	討	し	た	上	で	承	認	す	る	体	制	を	構	築	す	る	事	に	よ	り	変	更

順調にできると考えた根拠について論述の追記が必要だと考えます。

要件の確定が順調にできる	と	考えた	根拠	について	論述	の	追記	が	必要	だと	考え	ます。												
2 . 2 . 対応策の実施状況と評価																								
要件検討会議の開催については、A社と合意が得られ																								
た。ところが、A社メンバーの会議への参加率が悪く重要																								
項目の優先順位を検討するにあたって不参加メンバーの																								
合意が必要な事																								
なかつた。また																								
が当初の予想よ																								
に実施できない可能性が濃厚となった。																								
社	の	責	任	者	と	相	談	し	、	検	討	会	議	に	出	席	で	き	な	い	場	合	は	、
そ	の	担	当	者	の	関	連	項	目	の	優	先	順	位	を	下	げ	る	事	と	し	た	。	こ
れ	に	よ	り	、	本	当	に	重	要	で	優	先	順	位	の	高	い	項	目	が	あ	っ	た	場
合	は	メ	ン	バ	の	参	加	が	得	ら	れ	た	た	め	、	優	先	順	位	が	決	ま	る	よ
う	に	な	り	、	6	割	の	重	要	管	理	項	目	に	つ	い	て	は	、	納	品	後	の	別
途	追	加	開	発	と	す	る	事	に	合	意	を	得	、	要	件	の	確	定	を	完	了	す	る
事	が	で	き	た	。	し	た	が	っ	て	、	私	が	実	施	し	た	対	応	策	は	、	一	定

対策の内容としてやや妥当ではないようにも読み取れました。例えば、出張などで会議に出席することがどうしても難しいA社担当者がいた場合はどうなるのでしょうか。基本的には、検討会以外の場でA社内で要件の優先度のある程度調整してもらい、調整の結果を検討会に持ち寄る、などの対応をすることが妥当であるように考えられます。会議に参加できないのは、参加できない正当な理由がある場合がほとんどだという性善説に則って対応をすることがプロマネの姿勢として妥当と考えます。罰則のような性悪説に則った対応は妥当ではない印象を受けました。

の	評	価	が	で	き	る	と	考	え	る	。	た	だ	し	、	メ	ン	バ	の	出	席	状	況	が
悪	い	時	の	対	応	策	を	初	期	段	階	か	ら	考	え	て	お	く	べ	き	で	あ	っ	た
こ	と	が	、	反	省	点	で	あ	っ	た	。													

氏名：

問：平成 24 年度 問 1

設問ウ

論述に具体性がやや不足していると考えます。要件定義の誤りや漏れが発生するのは、こういった要件を扱う時でしょうか。重要項目については、要件を客先と協議して決定しているので、その点の漏れや誤りは発生しないように感じました。客先との協議を通じてB社の技術者不足の課題を解消しているように読み取れましたので、その対策を行ってもなお、要件定義の漏れや誤りが発生する理由はどのようなものであると考えたのかを、論述する必要があります。

3 . 行頭は1文字空けます。 れ の 予 防 策

3 . 1 . 要 「B社」の誤りです。 れ ・ 誤

私 は 、 A 社 の 技 術 者 不 足 に よ り 要 件 定 義 工 程 で の 定 義 漏

れ や 定 義 誤 り 等 の 不 備 が 発 生 し 、 後 工 程 で の 要 件 膨 張 や

手 戻 り と な る リ ス ク に 対 応 す る 必 要 が あ る と 考 え た 。 そ

こ で 、 こ れ ら の 事 項 を 考 へ る 上 で 過 や 予 算 超

過 を 防 ぐ た め

・ 要 件 定 義

・ プ ロ ト タ イ プ を 作 成 し 、 A 社 規 定 と の 整 合 を 確 認

・ 工 期 と 予 算 の 再 見 積 も り を 実 施 し 、 差 異 を 提 示

・ 要 求 の 優 先 順 位 を 策 定 と プ ロ ト タ イ プ の 承 認

「の」の誤記です。

「が」の誤記です。

何 故 な ら ば 、 プ ロ ト タ イ プ を 用 い れ ば A 社 技 術 者 に 完 成

品 を イ メ ー ジ し 易 い た め 、 定 義 漏 れ や 定 義 誤 り が 発 生 し

に く い と 考 え た か ら で あ る 。 ま た 、 プ ロ ト タ イ プ を 用 い

て 工 期 と 予 算 の 再 見 積 も り を 実 施 す る 事 に よ り 、 精 度 の

高 い 見 積 も り が 可 能 と な り 、 必 須 で あ る 1 0 カ 月 後 の 検

収	に	対	応	可	能	な	機	能	の	要	求	範	囲	を	明	確	化	で	き	る	と	考	え	た	
か	ら	で	あ	る	。																				
3	.	1	.	予	防	策	の	実	施	状	況	と	評	価											
	プ	ロ	ト	タ	イ	プ	に	よ	る	要	件	定	義	は	、	A	社	技	術	者	か	ら	、		
	「	わ	か	り	や	す	い	」	と	好	評	で	あ	っ	た		A	社	規	定	と	の	整	合	性
確	認	は	順	調	で	あ	っ	た	が	、															
順	に	は	、	A	社	規	定	に	な	い	項	目	が	多	々	あ	っ	た	た	め	、	追	加	要	
望	が	数	多	く	出	さ	れ	、	重	要	管	理	項	目	は	当	初	予	想	の	倍	以	上	と	
な	っ	て	い	た	。	各	項	目	追	加	に	対	す	る	工	期	や	予	算	の	見	積	も	り	
を	元	に	、	検	討	会	議	で	優	先	順	位	を	決	定	し	プ	ロ	ト	タ	イ	プ	承	認	
が	得	ら	れ	た	た	め	、	要	件	が	確	定	し	検	収	が	当	初	予	定	に	間	に	合	
っ	た	た	め	、	私	の	実	施	し	た	対	応	策	は	一	定	の	評	価	が	で	き	る	と	
考	え	る	。																						
以	上																								

本論術は「要件の膨張」に関する内容となっています。本節では「要件の定義誤り・漏れ」に関する論述を行う必要がございます。

品質記録手